

令和 8 (2026) 年度
学生募集要項
医学部

総合型選抜



獨協医科大学
Dokkyo Medical University

CONTENTS

建学の理念・教育理念・アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）	1
獨協医科大学総合型選抜に出願される皆さんへ	4
◇ 獨協医科大学はこういう大学です	4
◇ 獨協医科大学が総合型選抜入学者に求めるもの	7
◇ 教授から総合型選抜受験生へのメッセージ	8
1)基礎医学教授からのメッセージ	8
2)臨床医学教授からのメッセージ	9
◇ 総合型選抜	10
募集学科・人員	10
出願資格	10
出願手続	10
出願方法	11
試験日・試験場及び試験方法	12
選抜方法	13
合格発表	14
入学手続	14
◇ 学納金等について	15
入学時納入金	15
納入金返還申し出期限	15
在学6年間にかかる学納金	15
奨学金制度	15
寄付金	15
◇ 入学前教育について	16
◇ 個人情報の取扱いについて	16
◇ 試験場案内図	17

建学の理念

- 1) 人間性豊かな医師及び看護職者の育成
- 2) 能力の啓発に重点を置く教育方針
- 3) 地域社会の医療センターとしての役割の遂行
- 4) 国際的交流に基づく医学・看護学研究

教育理念

患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される医師の育成。

アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

本学の建学の精神、医学部教育理念、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づいて教育を行うため、次のような基本的な素養を満遍なく備える人を入学生として求めます。

<求める入学生像>

- 1) 医学を学ぶ強い意志を持っている人
- 2) 医学を学ぶ上で必要な基礎学力を有し、計画性を持って学習に臨み、自ら問題を解決する能力のある人
- 3) 理性と常識を備え、社会に貢献する意欲のある人
- 4) 協調性とコミュニケーション能力を持ち、他者の立場になって物事を考え行動できる人
- 5) 国際的視野を持って医学を志す人

獨協医科大学医学部では受験生に対し、入学生に求めるこれらの素養及び学力の3要素(①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学修する態度)を踏まえ、多面的・総合的に評価・判定するため、次のとおり様々な選抜方法を導入しており、各選抜方式の特性に応じ、各種の試験方法を取り入れて、公平かつ公正な入学者選抜を行います。

<各選抜方式の概要>

(1) 一般選抜（前期・後期）

学力試験結果に重点を置き評価する。

(2) 総合型選抜

多様な試験結果を総合的に評価する。

(3) 学校推薦型選抜（公募（地域特別枠））

出身高校の推薦に重きを置き評価し、併せて地域医療貢献への意欲等を評価する。

(4) 学校推薦型選抜（指定校制）

出身高校の推薦に重きを置き総合的に評価する。

(5) 学校推薦型選抜（指定校制（栃木県・埼玉県・茨城県地域枠））

出身高校の推薦に重きを置き評価し、併せて対象とする県の地域医療貢献への意欲等を評価する。

(6) 学校推薦型選抜（系列校）

出身高校の推薦に重きを置き総合的に評価する。

(7) 一般選抜（栃木県・新潟県地域枠）

学力試験の結果に重点を置き評価し、併せて対象とする県の地域医療貢献への意欲等を評価する。

<入学までに求める学習成果>

医学部では、多様な学問分野を学修することから、将来、医師となり活躍するために必要な学力、倫理観、医学や社会への高い関心などを身に付けておくことを望みます。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）及びカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）の内容は本学ホームページを参照ください。

<https://www.dokkyomed.ac.jp/dusm/overview/philosophy.html>



「学力の3要素」を踏まえた多面的・総合的評価について

◎：特に強く関連 ○：強く関連

入試種別		評価方法	知識 技能	思考力 判断力 表現力	主体性を持って 多様な人々と 協働して学ぶ態度	
総合型選抜	総合型	自己申告書等			◎	
		適性試験	◎	○		
		小論文	○	◎		
		面接		◎	◎	
		プレゼンテーション		◎		
学校推薦型 選抜	公募（地域特別枠） 指定校制 指定校制（栃木県地域枠） 指定校制（埼玉県地域枠） 指定校制（茨城県地域枠） 系列校	調査書			◎	
		自己申告書等			◎	
		適性試験	◎			
		小論文		◎		
		面接		◎	◎	
一般選抜	一般（前期） 一般（後期）	調査書			◎	
		学力試験	◎			
		小論文		◎		
		面接		◎	◎	
	栃木県地域枠 新潟県地域枠	調査書				◎
		学力試験	◎			
		小論文		◎		
		面接		◎	◎	

〔禁煙への取り組みについて〕

獨協医科大学では、人々の健康を守る医療職者を育成する大学として、入学者は喫煙しないことを約束できる方とします。

獨協医科大学

総合型選抜に出願される皆さんへ

◇ 獨協医科大学はこういう大学です

獨協医科大学の母体である獨協学園は、1883（明治16）年に西周を初代校長として開校された獨逸学協会学校（現在の東京、目白にある獨協中学・高校の前身）から出発し、ドイツ文化の習得・普及を介して日本の発展に寄与してきました。その結果、戦前には全卒業生の4割以上が医療関係者として日本全国で活躍し、医学界の中心を獨協出身者で占める状況が続いていました。戦後、このような状況を踏まえ、学園内に医科大学を設立しようとする機運が盛り上がり、1973（昭和48）年4月に栃木県壬生町の地に開学することができました。

これまでに4,925名の医師を世に送り出し、日本全国で地域医療に貢献しています。また博士（医学）も1,783名誕生しており、本学に残って後輩の教育に携わっている者も多く、現在、教授24名、准教授42名がそれぞれの分野で活躍しています。

近年医学教育界においては急速な改革が行われており、本学においても教育理念に掲げた「広く社会一般の人々から信頼される医師の育成」に向けて、必要なカリキュラム改革を行っています。

教育課程については、低学年から高学年までオーバーラップしながら、高い見識や倫理観、国際的視野等を身に付けつつ医学を学修することができる、いわゆる「くさび型教育カリキュラム」を展開しており、基本的な医学知識の修得から診療参加型臨床実習に至るまで段階的かつ連続的なカリキュラムを編成しています。

一方、医学へのモチベーションを高める目的で、「コミュニティヘルスイターンシップ（CHI）（地域医療早期体験実習）」、「地域医療学」を開設する他、倫理学・法学・行動科学等を低学年時に履修し、その後、研究倫理・多職種連携・医療倫理等、順次性をもった6年一貫のプロフェッショナルリズム教育を行う「メディカル・プロフェッショナルリズム」を開設しています。

また、自由選択科目として、地域社会で求められる医療、保健、福祉活動を理解し、実習等を行う「地域包括医療実習」（一部学生は履修を必須）や医科学の研究がどのように行われているかを理解するとともに、科学的思考力の育成を目的とした「医学研究室配属」を開設しています。

本学を卒業して医師国家試験に合格した卒業生は、医師としての第一歩として、2年間の初期臨床研修に臨みます。

大学に隣接する獨協医科大学病院は厚生労働省の定める基幹型臨床研修病院に指定されており、多くの本学卒業生が臨床研修に励んでいます。医師法に規定される医師臨床研修制度に則った研修プログラムを整備し、豊富な症例と経験豊かな指導医陣の下で、即戦力として立派に活躍できる医師を育成しています。初期臨床研修修了後は各種専門分野を学ぶため、専門研修に移行します。獨協医科大学病院は専門研修プログラムを整備しており、希望者はレジデント（専攻医）として、さらに専門分野を学び各種専門医資格の取得を目

指すことが出来ます。

獨協医科大学病院では、次のような理念を全教職員共通の目標として掲げ、特定機能病院としての役割を果たしていこうとしています。

- 1)医療倫理の徹底
- 2)高度で良質な医療の提供
- 3)医療の進歩への貢献
- 4)連携医療の構築
- 5)良質な医療人の育成

獨協医科大学病院には 33 の診療各科に加え、認知症疾患医療センター、総合周産期母子医療センター、救命救急センター、とちぎ子ども医療センター等、27 のセンターがあり、診療体制は充実しています。

当病院は高度医療の提供を維持し、高度急性期病院の役割を果たし、加えて新型コロナウイルス感染症の対応（特に、重症患者の治療）を含め地域医療にも貢献してきました。移植医療にも重点を置き、厳密な適応基準に基づき、生体肝移植、膵腎同時移植、肺移植、骨髄移植、角膜移植、など数多く実施しています。栃木県全域の基幹病院として、北関東最大のメディカルセンターとして、三次救急医療、高度救急医療の提供に努めており、今後もドクターヘリ稼働数、救急車受け入れ台数を増加させ、引き続き、地域医療を支えていきます。また、災害拠点病院としても、災害派遣医療チーム、災害派遣精神医療チームが、大地震、新型コロナウイルス感染症対応などの災害時に出勤して、救急医療、災害医療で重要な役割を果たしています。

1984（昭和 59）年には、埼玉県越谷市に埼玉医療センター（2017（平成 29）年 11 月に名称変更）を開院しました。当センターは許可病床 928 床の急性期病院であり、人口が増加している越谷市を中心とした埼玉県東南部の約 200 万人の住民の方々の健康を守るべく、地域の医師会や医療機関と親密に連携しながら、約 2,500 人の職員がチーム医療に徹し、日々多忙な医療業務を行っています。手術室は全国的にも最大級で、術中CT撮影室、無菌室、ロボット支援下技術（da vinci.hinotori™）手術室等の最先端の機器、設備を有しており、毎年 1 万件を超える手術を施行し、さらに増加傾向であります。

教育面においては、獨協医科大学の臨床部門に属し第 3・4 学年の講義と第 5 学年の臨床実習（Clinical Clerkship）、第 6 学年の臨床実習（Advanced Clinical Clerkship）及び集中講義を一部分担するとともに、本学卒業後の臨床教育を担当しています。

教育病院として“病気を診るのではなく、病気になった人間を診る”ことを念頭においた医療を実践でき、最新の医療に対応できる質の高い医療人を目指しているのが特徴です。

また、大学病院、埼玉医療センターに続く本学 3 番目の医療機関として、栃木県日光市に日光医療センターを 2006（平成 18）年に開院、2023（令和 5）年 1 月には新病院へ移転新築しました。ここでは、21 の診療科と 199 の病床を備え、「地域社会の信頼に応える基幹病院として、医療を求める人々におもいやりの心を持って接し、安心・安全かつ高度で良質な医療を提供します。」という基本理念のもと、指定管理者制度による日光市立三依診療所の運営や、日光地区の病院輪番制（二次救急）病院として救急医療に参画し、2016（平成 28）年 3 月に地域災害拠点病院及び栃木県DMAT指定病院、2019（平成 31）年 4 月に地域医療支援病院に認定されました。

これまで以上に、国際観光都市の基幹病院として、急性期医療からリハビリテーション

まで切れ目のない医療サービスを提供していきます。

獨協医科大学では、実践的な臨床教育だけではなく、最新の高度医療を提供できる医師に必要なサイエンス・マインドを高めるために、大学院医学研究科博士課程が開設されており、基礎医学や臨床医学の各専門分野の高度な研究活動の拠点となっています。各研究室には最新の研究設備や機器類が整備され、病気の原因究明や治療法の改善を目指した先進的な医学研究が共同利用体制の下に進められています。

このような環境の中で、皆さんが本学の教育理念である「患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される医師」を目指してのびのびと学び、卒業後は医学・医療の様々な分野において指導的な役割を果たしてくれることが私たちの願いです。

◇ 獨協医科大学が総合型選抜入学者に求めるもの

21世紀の医学・医療がさらに発展していくために、次世代の優れた人材を育成していくのは大切なことであり、それは獨協医科大学の使命でもあります。本学では開学以来の一般入学試験に加えて、1981（昭和56）年度から指定校制推薦入学試験、1998（平成10）年度から学士編入学試験、2002（平成14）年度から大学入試センター利用入学試験（2025（令和7）年度廃止）を導入しており、多様な人材構成によるクラスの活性化を通して学習効率の向上を目指してきました。2004（平成16）年度から、新しい入学者選抜方式として従来の学士編入学試験を発展的に解消して本選抜を導入した目的は、他分野において豊富な経験や才能を発揮した人材をクラスに迎え入れて、お互いに協力し、理解し、そして切磋琢磨しあうことで生まれてくる相互信頼関係を育むことにあります。総合型選抜入学者は、他分野で得た経験を基にして、この相互信頼関係を育む核となって、リーダーシップを発揮しながら、お互いの自己学習能力を高めあっていくことが期待されます。

総合型選抜は、一般に「学力よりもそれ以外の能力を重視する入学者選抜」として捉えられがちですが、医学部においてはたゆまなく進歩する膨大な医学の知識・技能・態度を効率よく習得することが求められています。さらに、卒業後も信頼される医師として活躍するためには、生涯に渡って自己研鑽を続けていくことが必要です。したがって、医学部における総合型選抜入学者はそれに対応できるだけの学習能力をすでに持っていることが大前提になります。私達が考える「学力」とは、「学んだ力」「学ぶ力」「学ぼうとする力」という三つの力の総和であると考えています。この三つの力をバランスよく身につけるためには、「学ぶ意味」をよく理解している必要があります。

本学が総合型選抜入学者に求める資質として、「Compassionate」「Competent」「Communicate」という「三つのC」が必要だと考えています。「Compassionate」とは、人の痛みや苦しみを敏感に察知して、それを心からやわらげたいと思える人間性を持つことです。「Competent」とは、自分の持っている知識を総動員して目の前の困難を切り開く能力を持つことです。医学の進歩に対して自己学習を怠らず、自分自身を常に内省し、改善点を見つけてはそれを直していくという不断の努力が要求されます。「Communicate」とは、患者だけではなく、同僚医療人や世界の医学文献から正確な情報収集を行い、それを整理して価値判断を下し、目の前の患者に最適の治療を提供する能力を持つことです。

総合型選抜入学者は卒業後、医療、研究、後進の育成など幅広い分野で活躍していただき、本学発展の原動力となることが期待されています。したがって、総合型選抜入学者に求められる最も重要なことは、獨協医科大学がどういう大学であるかをよく理解した上で、なぜ本学の一員になりたいのかについて明確な意識を持っていることです。

◇ 教授から総合型選抜受験生へのメッセージ

1) 基礎医学教授からのメッセージ

本学の総合型選抜制度は、選抜された学生が他の医学部学生に対し多様な価値観を示し、自ら率先して自己啓発の姿勢を示していただくことを期待して行われています。将来働く場所がどこであろうと、医師にはその集団の中でリーダーシップをとることが求められますが、総合型選抜入学者には、勉学のみならず学生生活のすべてにおいて「同期のリーダー」として、自ら学ぶ姿勢、そして未知の困難に立ち向かう姿を仲間たちに示していただきたいと考えています。

医学は、「基礎医学」、「臨床医学」、「社会医学」から構成されており、基礎医学には解剖学、生化学、生理学、病理学、微生物学等が、臨床医学には内科学、外科学、産科婦人科学、小児科学等が、そして社会医学には公衆衛生学、法医学等があります。本学のディプロマポリシーにもあるように、将来どの医学分野に進もうとも、医師には生涯にわたり能動的学修能力や科学的探究心をしっかりと持ち続けることが求められています。

私が専攻・担当している病理学(Pathology)は、病気のメカニズムを解明する幅広い学問領域ですが、顕微鏡下に病変部を詳細に観察することから得られる仮説を、分子生物学的手法をはじめとする様々な方法を用いて検証し、病気発生の普遍的なメカニズムを明らかにすることにより、現在、そして将来現れるであろう患者さんの診断・治療に大きく貢献しています。近年のがん治療や再生医療は目覚ましい進歩を遂げていますが、それは数十年に及ぶ地道な基礎医学研究があったからこそ成し得たものであり、現在の飛躍的な科学の進歩をもってすれば、多種多様な人材の叡智を結集することにより、医学領域にも更に大きな飛躍がもたらされるものと私は確信しています。

我が国が抱える深刻な少子高齢化問題は医療にも大きな問題を提起しており、早ければ数年後には医師過剰時代が始まるとする報告もなされています。医療の最前線に立ち、日々患者さんの診療を行う医師は確かに重要です。しかしこれからの医療を取り巻く多くの問題に立ち向かっていくためには、医学部学生時代から様々な社会問題について考え、医療人としてどのように社会に貢献していくべきか、そして医療の発展にどのように寄与していくか、一人ひとりが真正面から向き合っていく必要があります。

本学の総合型選抜で入学されるみなさんには、ぜひ10年後、20年後、50年後の我が国、そして世界を見据え、大きな夢と崇高な志を持った医師、医学研究者になっていただきたいと思います。私たちと一緒に、獨協学園の建学の理念である「学問を通じての人間形成」を実践し、近代医療の先駆けとなった栃木県壬生の地から、さらなる医療の発展、医学研究推進のビッグウェーブを起こしましょう。

未来を担う若者の応募を心よりお待ちしております。

病理学主任教授 矢澤卓也

2) 臨床医学教授からのメッセージ

「共に、医学のリーダーへ。」

獨協医科大学は、様々な分野での経験を生かし、学内に、そして医学界に優れた成果をもたらしてくれる入学志望者を探しています。

現在、大学に在学又は卒業し、医師を目指している優秀な人材を求めています。

これが獨協医科大学医学部 2026（令和 8）年度医学部総合型選抜（旧AO入試）を行うにあたってのメインテーマです。出願資格は、4年制以上の大学卒業生・卒業見込者・在籍者（2年次までの過程修了者）でかつ 2026（令和 8）年 4 月 1 日現在で 30 歳未満の者です。

まずは獨協医科大学がどういう大学かを皆さんに知ってもらいたいと思います。獨協医科大学の属する学校法人 獨協学園の歴史は 1881（明治 14）年設立の獨逸学協会、1883（明治 16）年設立の獨逸学協会学校に遡ります。獨協医科大学は 1973（昭和 48）年に栃木県に開学し、「患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される医師の育成。」という教育理念のもと、2023（令和 5）年に 50 周年を迎えた医科大学です。すでに 4,900 名以上の卒業生を輩出しています。これまでに多くの優秀な臨床医、研究者を育成し、本学のみならず、多くの大学・病院・研究施設・団体に活躍しています。

次になぜ本学は総合型選抜において医学のリーダーを求めているのでしょうか？リーダーとは「リードする人」、すなわち人々を率い、導く人です。ただここには力づくで率いるのではなく、あくまで人々が自主的に、喜んでその人に付き従おうとしなければ本物ではないと考えます。一般入学者と異なり総合型選抜入学者は他分野で得た経験を基にして、相互信頼関係を育む中心となってリーダーシップを発揮しながらお互いの自己学習能力を高めあって医師となっていくことが期待されます。さらに医師となったのちにも、全症例患者数北関東トップクラスを誇る獨協医科大学病院（1195床）、埼玉医療センター（928床）、2023（令和 5）年 1 月に新たに移転した日光医療センター（199床）の 3 病院を有する我が国屈指の施設において、患者さんに対し全人的医療を実践できる generalist として、また高度な技術をもつ specialist としてリーダーシップを発揮できる人材、次世代の医療界を担うリーダーを担うことが期待されます。

私自身は本学を 1993（平成 5）年に卒業し、以後一貫して本学で研鑽を積んで、リーダーシップを学んできました。次は皆さんとともに切磋琢磨できる日を楽しみにしています。

本学の一員としてリーダーシップを発揮していただきたく、ぜひとも獨協医科大学医学部を受験してください。よろしく申し上げます。

内科学（心臓・血管）主任教授 豊田 茂

◇ 総合型選抜

○ 募集学科・人員

医学部医学科（第1学年） 3名以内

○ 出願資格

以下の1～4の条件をすべて満たす者

1. 次のいずれかに該当する者
 - 1) 4年制以上の大学（外国の大学を含む）を卒業又は卒業見込みの者
 - 2) 4年制以上の大学（外国の大学を含む）に在籍し、2年次までの課程を修了している者（出願時の休学者（留学等による休学を除く）及び医学部医学科在籍者を除く）
2. 令和8年4月1日現在で30歳未満の者
（平成8年4月2日以降の出生者）
3. 学業のみならず、課外活動や社会活動に積極的に取り組んできた実績があり、本学を第一志望として入学を志す者
4. 卒業後も本学の一員となって医学・医療に貢献する意欲を持つ者

○ 出願手続

1. 出願期間：令和7年9月1日（月）～9月19日（金）（出願書類郵送必着）
2. 出願先：獨協医科大学 学務部入試課
〒321-0293
栃木県下都賀郡壬生町北小林880番地
電話 0282（87）2108（直通）

※ いかなる理由があっても、締切日の17時以降は受理できません。
早めに郵送していただくなどして、締切には十分に注意してください。

○ 出願方法

下記のものを取り揃え、出願期間中（10 ページ参照）に書留郵便により送付してください。

- ① 志願票 **A**・写真票 **B**・受験票 **C**・検定料納付票 **D**（本学所定の用紙に自筆で記入）
- ② これまでの大学受験活動歴（本学所定の用紙に自筆で記入）
 - ※ 記述を裏付ける客観的資料として、合格通知やセンター試験または共通テスト成績、予備校模擬試験成績などのコピーを添付してください。提出資料は返却しないので、原本ではなくコピーを添付してください。
- ③ 私の過去・現在・未来（本学所定の用紙（B4 サイズ）に自筆で記入：1,800 字以上 2,000 字以内）
 - ※ これまでの大学生活で何を心得て今後本学でどのように活かしていきたいのか等、客観的資料（②以外）を添付の上、記述してください。提出資料は返却しないので、原本ではなくコピーを添付してください。
 - ※ 第 2 次試験では、この内容についてプレゼンテーションをしていただきます。詳細は、本要項 13 ページの選抜方法を確認してください。
- ④ 課外活動等の顕著な成績（スポーツ・音楽・芸術等）（本学所定の用紙に自筆で記入）
 - ※ 記述を裏付ける客観的資料を添付してください。提出資料は返却しないので、原本ではなくコピーを添付してください。
- ⑤ 出身大学及び大学院の在籍・卒業を証明するもの（在籍証明書、単位取得証明書、学位記（コピー）等。ただし、学生証のコピーを除く）
- ⑥ 出身大学及び大学院の成績証明書
- ⑦ 写真 2 枚（縦 4cm、横 3cm、無帽上半身正面、令和 7 年 6 月以降撮影のものを志願票 **A**・写真票 **B**（2 か所）に貼付してください）
- ⑧ 検定料 60,000 円（本学所定の振替払込用紙を用い、最寄りのゆうちょ銀行・郵便局から払込みをしてください。なお、払込機能付きATMを利用することもできます。ゆうちょ銀行又は郵便局の窓口から払込みの場合は「振替払込受付証明書（お客さま用）」（原本）を、払込機能付きATMから払込みの場合は「ご利用明細票（振替受付票）」（コピー）を検定料納付票 **D** に貼付してください。）
- ⑨ 連絡用宛名シール（受験票の返送に使用しますので、確実に受け取ることができる住所（原則として保護者の住所）及び志願者本人の氏名を記入してください。）

※ 1. 上記の手続を完了した者には、本学から受験票を発行します。

なお、出願書類に不備がある場合は受理できない場合があります。

※ 2. 受理した書類・検定料は理由の如何にかかわらず返還しません。

※ 3. 虚偽の記載が判明した場合は、合格を取り消すことがあります。

※ 4. 疾病・負傷や身体障害等により、受験上の特別な配慮を希望する者は、下記の
本学ホームページに記載の申請手順に従い、申請を行ってください。

<https://www.dokkyomed.ac.jp/dusm/exam/special-measure.html>



○ 試験日・試験場及び試験方法

<第1次試験>

1. 試験日：令和7年10月4日（土） 入室時間：8:30～8:55
着席時間：9:00
2. 試験場：獨協医科大学（17ページ参照）
3. 試験方法：Ⅰ. 適性試験 9:30～11:30
Ⅱ. 小論文試験 12:30～14:30
Ⅲ. 書類審査
※適性試験・小論文試験は記述式。
※小論文試験は、英和辞書1冊持ち込み可（電子辞書除く）。

試験当日の注意事項：

- ① 受験票を必ず携帯してください。
- ② 試験開始後20分以上遅刻した場合は、受験は一切認められません。
- ③ 昼食は各自用意してください。
- ④ 机上には、黒鉛筆、鉛筆キャップ、シャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り（電動式・大型のもの・ナイフ類は不可）、時計（辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの・秒針音のするもの・キッチンタイマー・大型のものは不可）、眼鏡、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー（袋又は箱から中身だけ取り出したもの）を置くことができます。
- ⑤ 試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、電子辞書、ICレコーダー等の電子機器類、定規（定規の機能を備えた鉛筆等を含む）、コンパス、電卓、そろばん、グラフ用紙等の補助具を使用してはいけません。
なお、これらの電子機器類や補助具をかばん等にしまわず、身につけていたり手に持っているとは不正行為となることがあります。
- ⑥ 試験時間中に使用すると不正行為となる電子機器類は、試験室に入る前に必ずアラームの設定を解除し、電源を切ってから、かばん等にしまっておいてください。
- ⑦ 英文字がプリントされている服等は着用しないでください。着用している場合には、脱いでもらうことがあります。
- ⑧ 次のことをすると不正行為となります。不正行為を行った場合は、その場で受験の中止と退室を指示され、それ以後の受験ができなくなります。また、受験した全ての試験成績を無効とします。

- ・ 志願票、受験票・写真票、解答用紙へ故意に虚偽の記入（志願票・写真票に本人以外の写真を貼ることや本人以外の氏名・受験番号を記入するなど）をすること。
- ・ カンニング（カンニングペーパー・参考書・他の受験者の答案を見ること、他の人から答えを教わることなど）をすること。
- ・ 他の受験者に答えを教えたりカンニングの手助けをすること。
- ・ 配付された問題冊子・解答用紙を試験室から持ち出すこと。
- ・ 「解答はじめ」の指示の前に、問題冊子を開いたり解答を始めること。
- ・ 試験時間中に携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、電子辞書、ICレコーダー等の電子機器類を使用すること。
- ・ 試験時間中に、定規（定規の機能を備えた鉛筆等を含む）、コンパス、電卓、そろばん、グラフ用紙等の補助具を使用すること。
- ・ 試験時間中に携帯電話などの電子機器や時計などの音（着信・アラーム・振動音など）を長時間鳴らし、試験の進行に影響を与えること。
- ・ 「解答やめ」の指示に従わず、鉛筆や消しゴムを持っていたり解答を続けること。
- ・ 試験に関することについて、自身や他の受験者が有利になるような虚偽の申出をすること。
- ・ 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- ・ 試験場において監督者等の指示に従わないこと。
- ・ その他、試験の公平性を損なうおそれのある行為をすること。

<第2次試験>

1. 試験日：令和7年10月18日（土）入室時間：8:10～8:25
着席時間：8:30
2. 試験場：獨協医科大学（17ページ参照）
3. 試験方法：Ⅰ. 面接試験 9:00～
Ⅱ. プレゼンテーション

試験当日の注意事項：

- ① 受験票を必ず携帯してください。
- ② 入室時間を厳守してください。

○ 選抜方法

第1次試験は、適性試験・小論文試験の得点及び書類審査における評価を総合して合格者を決定します。

第2次試験は、第1次試験合格者に対して面接試験、プレゼンテーションを行い、第1次及び第2次試験の成績を総合して合格者を決定します。

1. 適性試験：
本学の学修に適合する分析力・思考力・判断力等を評価します。
2. 小論文試験：
英文の長文課題に基づいた客観的・論理的な作文能力を評価します。
3. 書類審査：
出願書類から推測される日常活動を考慮して社会に向き合う態度、主体性、計画性、医学に対する志、本学への貢献意欲などを評価します。
4. 面接試験：
1回当たり15分の個人面接を計4回実施し、多面的かつ総合的に評価します。
5. プレゼンテーション：
事前課題・当日課題それぞれに対しプレゼンテーションを実施します。テーマに基づいた資料ができているか、明確かつ論理的に発表できているかなど、思考力・判断力・表現力を総合的に判断して評価します。

事前課題

出願書類でもある「私の過去・現在・未来」をテーマに、予め志願者本人が作成したスライドを使用して、1人につき5分間でプレゼンテーションを行います。終了後には、内容に関する質疑応答を5分間で行います。

出願書類とは別に、PowerPointでスライド（枚数制限なし、動画・音声の挿入不可）を作成のうえ、USBメモリに保存し、第1次試験日に提出してください。

パソコン（Windows）、プロジェクター、スクリーン、レーザーポインター等の機材は本学で用意します。

当日課題

試験室入室後に提示するテーマに基づきプレゼンテーションを行います。

詳細は、第1次試験合格発表の際に本学ホームページの合否照会サイト（14ページ参照）にてお知らせします。

○ 合格発表

1. 日 時：〈第1次合格発表〉令和7年10月15日（水）10:00
〈第2次合格発表〉令和7年11月4日（火）10:00
2. 方 法：本学ホームページ（入試情報サイト→医学部→合格者発表）から、合否照会サイトにアクセスし、下記の手順により合否を確認してください。
下記URL又はQRコードから、直接合否照会サイトにアクセスすることも可能です。



獨協医科大学 合否照会サイト

<https://www.postanet.jp/PassPlus/Login?gkcd=012032>

<画面操作方法>

- ① 受験番号（A+ 数字4桁）、誕生日入力
- ② 「ログイン」ボタンを押す
- ③ 合否結果を確認

※画面イメージ

【合否照会期間】

1次合格発表：令和7年10月15日（水）10:00 から 10月18日（土）17:00

2次合格発表：令和7年11月4日（火）10:00 から 11月11日（火）17:00

注意事項：

- * 第1次試験の合格通知書はありません。
- * 合格通知書は郵送しません。お手元に残したい場合は、合否照会期間内に各自ダウンロードしてください。
- * 合格発表に関する問い合わせ、インターネットの操作方法等には一切応じません。
- * インターネット上で、データの改ざん、通信上のトラブル等が発生しても本学は一切の責任を負いません。
- * インターネットの誤操作、読み違い等を理由とした入学手続期間終了後の入学手続は一切認めません。

○ 入学手続

手続期限：令和7年11月11日（火）

- (1) 合格者にのみ表示される「web入学手続システム」にアクセスし、入学手続を行ってください。15ページに記載する入学時納入金を納付し、所定の手続を行うことで完了となります。
- (2) 入学手続の細目は、合否照会サイトからダウンロードして必ず確認してください。
※ 指定の期日までに入学手続を完了しない者は、入学の意思がないものとみなします。

◇ 学納金等について

○ 入学時納入金

下記の「1. 入学費用」と「2. その他の費用（委託徴収金）」の合計金額とします。

なお、入学金を除く学納金（授業料及び教育充実費）については、2分割納入（分納）の制度があります。

1. 入学費用

項目	全納の場合	分納の場合	
		前期	後期
入 学 金	1,500,000 円	1,500,000 円	—
授 業 料	3,500,000 円	1,750,000 円	1,750,000 円
教育充実費	3,600,000 円	1,800,000 円	1,800,000 円
合 計	8,600,000 円	5,050,000 円	3,550,000 円

※ 分納の場合、入学手続きに当該手続きに関する書類の提出が必要です。

※ 教育充実費の分納は初年度のみとなります。

2. その他の費用（委託徴収金）

項目	金額	備考
学友会費	100,000 円	入学時のみ
父母会費	600,000 円	入学時のみ
合 計	700,000 円	

○ 納入金返還申し出期限

入学手続きを完了し、令和8年3月31日（火）17:00までに入学を辞退する旨申し出があった場合には、入学金を除く納入金を返還します。ただし、申し出の期限を過ぎた時は、納入金は一切返還いたしません（委託徴収金を除く）。

○ 在学6年間にかかる学納金

項目	初年度	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計
入 学 金	1,500,000 円						1,500,000 円
授 業 料	3,500,000 円	3,500,000 円	3,500,000 円	3,500,000 円	3,500,000 円	3,500,000 円	21,000,000 円
教育充実金	3,600,000 円	2,100,000 円	2,100,000 円	2,100,000 円	2,100,000 円	2,100,000 円	14,100,000 円
合 計	8,600,000 円	5,600,000 円	5,600,000 円	5,600,000 円	5,600,000 円	5,600,000 円	36,600,000 円

※ 授業料は2年目以降についても2分割納入（分納）の制度があります。

○ 奨学金制度

- ・ 獨協医科大学特別奨学金（第2学年以上、年額60万円）
- ・ 獨協医科大学医学生教育ローン利子補給奨学金
- ※ 総合型選抜入学生で、学費支弁が困難なため学生又は保護者等学費支弁者が金融機関から教育（学資）ローンの融資を受けた者に対しては、経済的負担を軽減する観点から在学期間中の学納金相当額に係る利子の一部（年額20万円を上限）を奨学金として補給しています。
- ・ 獨協医科大学桜杏会互助事業修学金（原則第2学年以上）
- ・ 獨協医科大学災害罹災等学生に対する授業料減免
- ・ 日本学生支援機構奨学金
- ・ 民間団体・地方公共団体奨学金 各種

○ 寄付金

本学では教育研究設備充実のため、入学後に別に定める「寄付金募集趣意書」に基づき、任意の寄付金を募集します。

◇ 入学前教育について

本学では、総合型選抜での合格者に対して、入学前教育を行います。詳細については、12月13日（土）開催の入学予定者オリエンテーションでお知らせします。

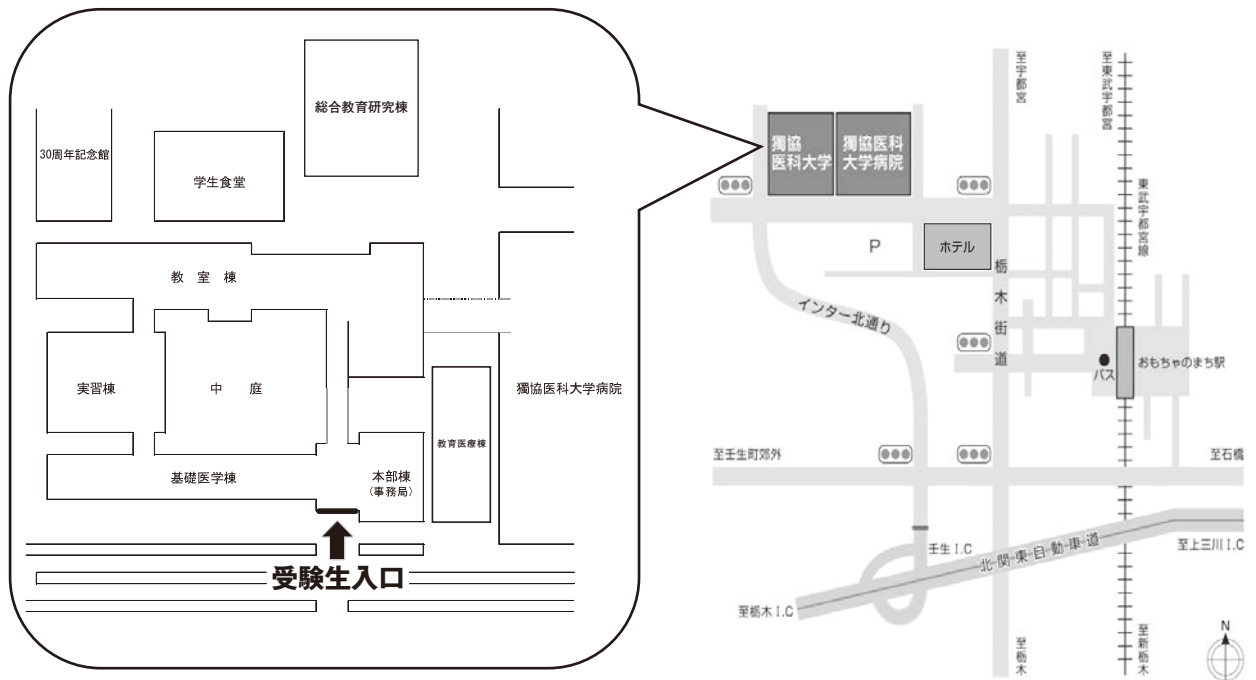
◇ 個人情報の取扱について

本学では、出願にあたってお知らせいただいた氏名、住所、その他の個人情報は、入学者選抜、合格発表及び入学手続と、これらに付随する業務を行うために利用します。

また、入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入学者選抜方法等に関する調査・分析、入学後の学生生活支援に係る業務に利用します。その他の目的に利用することはありません。

上記業務の一部については、獨協医科大学と秘密保持契約を結んだ業者（以下「受託業者」）で行います。委託業務を遂行するため、受託業者に対して必要な範囲で、お知らせいただいた個人情報を提供します。予めご了承ください。

◇ 試験場案内図



電車を利用する場合

- (東武鉄道を利用)
- 東武宇都宮線「おもちゃのまち」駅下車、西口より徒歩約15分（「獨協医大病院前」行きバスにて約3分）
- (JRを利用)
- JR「宇都宮」駅より、市内バスにて「東武宇都宮」駅下車（約10分）
「東武宇都宮」駅より東武宇都宮線にて「おもちゃのまち」駅下車、西口より徒歩約15分（「獨協医大病院前」行きバスにて約3分）
 - JR「宇都宮」駅よりタクシーにて約35分、JR「小山」駅よりタクシーにて約45分、JR「石橋」駅よりタクシーにて約15分

お車を利用する場合

- 北関東自動車道「壬生IC」から3分
- 東北自動車道「栃木IC」から30分
- 東北自動車道「鹿沼IC」から30分

